

地域活性化を目指したメディアミックスに関する研究

舩井 道晴・湊 信吾

A case study on the Media Mix for the local revitalization

Michiharu MASUI* and Shingo MINATO*

**Department of Business Administration, Ishinomaki Senshu University,
Miyagi 986-8580, Japan*

Abstract

In July 2012, we acquired the license of area one-segment broadcasting and we launched the broadcast station named "Ishinomaki One-Seg." Then, we started a collaboration program with the community FM radio station from the same year in October. As a broadcast station that produced a video and radio program at ordinary times, in a state of emergency, it was constructed role organization and function as a provider of location information for the evacuees and victims. In this paper, we explain the activities of Ishinomaki One-Seg and discuss the significance of that university has a broadcasting station.

1. はじめに

石巻専修大学は、2012年7月にエリアワンセグ放送の免許を取得した。学内に学生を主体とした「いしのまきワンセグ」が発足し、同年10月から石巻のコミュニティFM局「ラジオ石巻」と共同制作番組を開始した。学内外において多大な問題が発生しながらも、東日本大震災を耐え抜いた石巻専修大学を中心として、コミュニティFM放送局である「ラジオ石巻」および石巻圏域の自治体と連携することで、強固かつ迅速な情報提供体制を構築することができないだろうかと考えたことが、本研究の主な動機である。

本研究には2つの目的がある。第一に、平常時の番組制作の方法を確立させ、放送を通して地域情報を提供する体制を構築することを目的とする。また、本学は地震や津波による被害が軽微だったこともあり、地域の復旧・復興の拠点として貢献した。「いしのまきワンセグ」のスタジオは、緊急時においても大学の自家発電機により電力を確保し、ワンセグ放送を行う事が可能である。このことから、震災などの緊急時において本学が情報の発信拠点として活動できる体制を構築することを第二の目的とする。本研究を通じて地域とのつながりを深め、東日本大震災で断ち切ら

れた石巻地域のコミュニティや復興の様子を「いしのまきワンセグ」の活動を通じて配信、蓄積していく。

石巻専修大学のエリアワンセグ放送が、震災などの非常事態が発生した際に即対応し地域に必要な情報を提供するだけでなく、観光、産業、復興に関して学生たちの知恵や力を盛り込んだ番組を制作していくことで、石巻の地域産業へ貢献することができる。仙台に拠点を置くメディアが多い石巻において、「石巻発の新しいメディア」を生み出すことにつながると考えた。

しかしながら、エリアワンセグ放送は期間とエリアが限られていることが原則にあるため、特に機材の調達において困難な状況が発生した。一部機材を撤去し、2014年7月には完全に停波した。そこで、本研究ではエリアワンセグ放送を行う上で培った技術的なノウハウを継承しつつ、コミュニティFMでの放送を軸にし、インターネットメディアとの連動という形を取り入れ、地域メディアとの結びつきをより強固にする方向に舵を切った。

本論文では、いしのまきワンセグの概要を説明し、これまでの活動について言及する。

2. いしのまきワンセグの概要

いしのまきワンセグの最大の特徴は、エリアワンセグ放送を行うだけではなく、IP 伝送装置（図 1）およびインターネット網（図 2）を導入し、石巻専修大学、専修大学、ラジオ石巻、かわさき FM の 4 局を結び、同時放送を可能にした点である。これにより、限定されている「エリア」を拡大することに成功した。

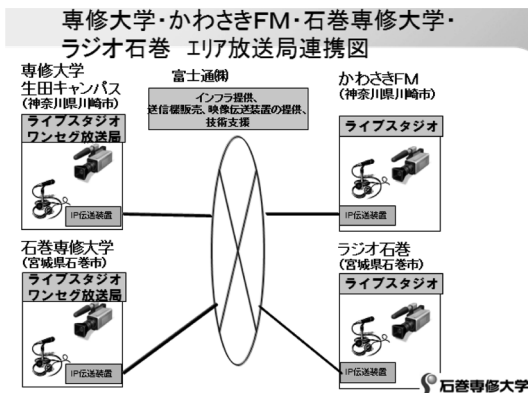


図 1 IP 伝送装置を利用した放送局の連携

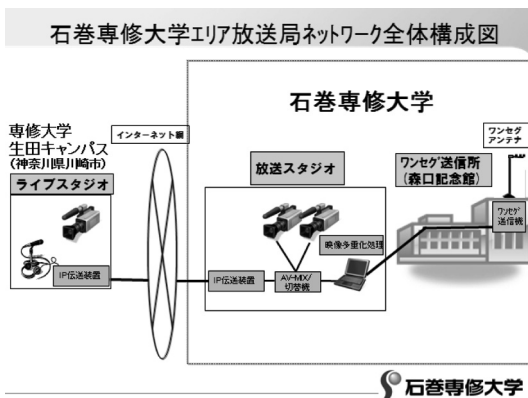


図 2 ネットワーク全体図

発足当時、いしのまきワンセグは番組を制作するに当たり、放送を行う際に必要な機器の操作、企画の立案等が未経験であったため、かわさきワンセグの協力を得ることになった。また、一般の放送局における番組の企画、準備、取り組む姿勢についてもラジオ石巻の協力のもとに放送を行うことになった。また、技術的なサポートは株式会社富士通の協力を得た。しかしながら、活動を続

けていく中で、富士通が完全にワンセグ事業から撤退することが報告された。富士通としてはエリアワンセグの制度化・規制緩和のもとに大学で実証実験を行ってきたが、ビジネス性が少なく民間では事業困難な状況となるため実証実験を終了することになった。この理由は本学としても、十分納得のいくものであった。専修大学のかわさきワンセグにおいても同様に、機材の撤収を行うことになった。

これによりいしのまきワンセグとしての活動は終了したが、ラジオ石巻とのつながり、そして技術を身に付けてきた学生たちは残る。そこで、次の展開を考案することとなった。

3. 研究方法

3.1 エリアワンセグとの連動

石巻専修大学では、地上一般放送局の免許付与と同時に、番組制作グループを発足させ、放送を継続してきた^(1,2,3)。本研究では、その活動を踏まえた上で、エリアワンセグを用いて継続的に情報を提供する体制を本格的に整備し、非常時などにおいては限定されたエリアだけでなく、地方自治体、コミュニティ FM 局と連携することで広範囲のエリアに情報を提供できるツールとしてのエリアワンセグ放送の可能性を探った。

まず、現在の制作体制を土台とした番組制作体制を強化する。石巻専修大学の学生が主体となって番組を企画、制作、編集する環境を整えながら、これまでの活動の中で習得した基本的な技術を新たに局に加わる学生に継承することとした。

発足当初から 2 年間は、学生スタッフの数は 4 名であったが、新たに 13 名の学生がスタッフとして加わり、総勢 17 名の体制となった。この学生スタッフの増員結果、ラジオ石巻との共同制作番組「いしのまきワンセグ・キャンパスライブ」（以下「キャンパスライブ」）を継続させる一方で、石巻市紹介 CM の制作をいしのまきワンセグで請け負う事が可能となった。また、同時にエリアワンセグでは映像も同時に配信するため、撮影した素材を活用して、「キャンパスライブ」をインターネット（Youtube）で配信することを検討した。その活動の中で、石巻市長、女川町長の石巻圏域の行政とのコミュニケーション（図 3、図

4) も取り、地域密着型のメディアとしての幅を広げていくこととなった。



図3 石巻市長へのインタビュー



図4 女川町長へのインタビュー

3.2 インターネットとの連動

本研究では、当初エリアワンセグ放送の平時および非常時の運用法の開発を中心として研究を進めながら、特にラジオ石巻との連携体制を強化し、石巻の団体・個人と連携し、情報を共有することで、地域住民への円滑な情報提供が図ることを予定していた。しかしながら、実験開始から3年を経過するにあたり、機材および技術提供を行っていた富士通がエリアワンセグ放送からは完全に撤退することになった。それに伴い、実験的な構成であった本学に導入された機材は撤去されることとなった。その間、代替機材の提供や新規購入を検討・議論したが、特に費用面に関して妥結点を見いだすことが出来なかった。この経緯により電波を継続的に出力することが不可能になり、法律等の制約により、平成30年まで有効で

あったエリアワンセグ放送の免許を返納し、石巻専修大学エリアワンセグ放送は終了せざるを得ない事態に陥った。

その代替手法として考えたのが、インターネットとの連動である。スタジオ、カメラ等の収録機材、映像編集機材等は購入していたため、制作は問題なく行うことができる。また、これまでの3年間共に放送を行ってきた石巻のコミュニティFM局であるラジオ石巻との結びつきは非常に強く、今回の経緯により、エリアワンセグ放送というチャンネルが失われてしまったが、YoutubeやUstreamなどのインターネット放送とコミュニティFMとの連携に注目をした。コミュニティFMが自社のwebサイトを構築する、あるいはSNSによる情報発信をするという方法はこれまでもあったが、コミュニティFMの学生制作番組とインターネット放送の連動は存在するようではなかった。地域活性化と災害時における情報提供のあり方を追究するという当初の目的は変更せず、これまで培ってきたノウハウを活かしつつ、コミュニティFMによる放送では地域に密着した情報を発信し、インターネットでは被災地の現在と今後を全世界的に発信する取り組みを進めていくこととした。

また、インターネットを活用する上で重要となるのが「情報の拡散」である。とりわけ、インターネット上で効果的に情報を拡散するためにwebサイト・ブログ⁽⁵⁾とSNSを活用する必要がある。SNSに関してはFacebook⁽⁶⁾やTwitter⁽⁷⁾といったサービスを使う事ができるが、webサイトの主流はフラットデザインや動きを持たせたものである。これらに関しても、外部ではなく学内のスタッフが構築できるよう準備を開始した。

4. 結果

4.1 エリアワンセグとの連動時

幸いなことに災害のような緊急対応をとる事が無かったため、平常時の「いしのまきワンセグ・キャンパスライブ」の放送を毎週1回金曜日の13:00~13:29に行った。2014年4月~9月まで、第73回~第98回である(放送回数は前年度から継続してカウントしている)。この間の放送の特徴としては、「第76回・JR仙石線復興に向けて

～石巻駅長インタビュー～」,「第 93 回・石巻トリコローレ音楽祭」「第 96 回・ツールド東北～主催者の想い～」など,「地域密着」をテーマにした放送も行い,主要メディアには取り上げられない地域に密着した情報も提供した。

4.2 インターネットとの連動

引き続き,平常時の「いしのまきワンセグ・キャンパスライブ」の放送を毎週 1 回継続して行った。2014 年 10 月～2015 年 3 月まで,第 99 回～第 124 回である。2015 年 3 月をもって,エリアワンセグ放送の終了および免許返納に伴い,「いしのまきワンセグ」としての活動に終止符を打った。2014 年 10 月からは「キャンパスライブ」の Youtube⁽⁸⁾上での放送を本格的に開始した。これにより,エリアワンセグ放送の時と構成は同じまま,放送エリアの拡大することとなった。

また,石巻専修大学にて行われている「復興ボランティア学」の映像制作を担当し,地域で活躍する NPO をはじめとした人々の講義の模様をインターネット上で公開した⁽⁹⁾。8 月には NPO 法人「OPEN JAPAN」の吉澤武彦氏が主催する,第二次大戦における広島での被爆体験を語り継ぐ取り組みである「8.6 One Night 石巻」の映像制作を担当し,DVD にまとめ石巻市教育委員会に収めた(図 5)。

9 月よりラジオ・インターネット番組制作のスタッフを一部切り離し,地域貢献活動をメインとするスタッフを設置し,「東日本復興支援コンソーシアム」による動画作品コンテストおよび「KHB 東日本放送」が主催する「ふるさとみやぎ CM 大賞」⁽¹⁰⁾に参加した。これは,石巻を拠点に地域活性化の運動を行う NPO 法人「DoTank みやぎ」と共に制作をした。東日本復興支援コンソーシアムのコンテストにおいては準グランプリを獲得し,ふるさとみやぎ CM 大賞では石巻市の予選を通過し,石巻市の代表として出品できたが,惜しくも受賞には至らなかった。12 月には毎年石巻市で行われている地場産品フェアに関する本学学生の取組の取材を行い,その模様を紹介する VTR も作成している。同時期に,インターネットによる情報提供を活性化させるために,ス



図 5 8.6 One Night 石巻 DVD を渡す模様

タッフがプログラミング技術を修得し web サイトを構築している。

5. おわりに

このように,本研究ではエリアワンセグ・コミュニティ FM による放送を土台としてインターネット放送を開始しただけではなく,プログラミングによる開発などを取り入れ,web サイト上での番組との連動を取り入れる事で,地域メディアの中の新たな展開を生み出す事に成功している。

何より,2 年半も長期に渡り,地元の大学の学生が地元のラジオ局で 120 回を越えて生放送を行い,街に出てメディア人として活動していることは非常に価値があろう。先述した通り,「いしのまきワンセグ」としての活動は 2015 年 3 月で終了したが,これまでの結果を受けて,ラジオ石巻において 2015 年 4 月以降も放送枠を確保し,番組制作をすることが可能となった。現在のスタッフたちだけでなく,石巻で新たに生活をスタートさせる学生たちに対しても,放送や制作に携わることができる機会を創りだすことができた。

謝辞

本研究は,平成 25 年度公益財団法人放送文化基金研究助成に採択された研究課題「地域活性化および災害時対応を目指したエリアワンセグ・インターネットとコミュニティ FM の連動に関する研究」および,平成 26 年度石巻専修大学共創研究センタープロジェクト事業に採択された研究

課題「メディアミックスによる地域活性化手法の構築」の助成を受けて行われた。

参考文献

- (1) 湊信吾・益満環・舩井道晴 (2013), 大学におけるエリアワンセグの可能性、石巻専修大学経営学研究, 第24巻、第2号、25-37。
- (2) 舩井道晴 (2013)、エリアワンセグ放送によるメディア教育と地域活性化の可能性、東日本大震災～石巻専修大学報告書～、第2号、68-71。
- (3) 舩井道晴・湊信吾・益満環 (2014) 地域間交流および災害時活用を目指したワンセグ用番組制作プログラムの開発、電気通信普及財団 研究調査報告書 No.29。
- (4) 舩井道晴 (2015)、地域活性化および災害時対応を目指したエリアワンセグ・インターネットとコミュニティ FM の連動に関する研究、放送文化基金平成 25 年

度助成報告書。

- (5) いしのまきワンセグ、「いしのまきワンセグ公式ブログ」(<http://blog.livedoor.jp/ilseg/>)
- (6) いしのまきワンセグ、「いしのまきワンセグ公式 Facebook」(<https://www.facebook.com/ilseg>)
- (7) いしのまきワンセグ、「いしのまきワンセグ公式 Twitter」(<https://twitter.com/ilseg/>)
- (8) いしのまきワンセグ (2014)、「いしのまきワンセグキャンパスライ」(<https://www.youtube.com/channel/UCD1RyITG0UdX4bAiS27T5gw>)
- (9) 石巻専修大学、「復興ボランティア学 2014」(https://www.youtube.com/channel/UCWId00UoblXRZdEGQa9ug_w)
- (10) 石巻市役所、「2014 みやぎふるさと CM 大賞について」(<https://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10151000/9120/20131211184616.html>)

